



防災士よこはま

日本防災士会横浜支部通信

第39号 NO. 039

日本防災士会横浜支部
支部長 今井 淳
事務局長 早乙女善彦

発行日 2019年3月15日

横浜ラポールで「HUG 講習会」開催

今回は、新横浜駅の近くにある社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団「障害者スポーツ文化センター」横浜ラポールにおいて職員(障害者スポーツ・インストラクター等)の皆さんに対してHUGの講習会を行ないましたのでご報告致します。

日時:2019年(平成31年)3月15日(金曜日) 13:30~16:30

会場:障害者スポーツ文化センター横浜ラポール 新横浜駅より 徒歩 10分

(神奈川県横浜市港北区鳥山1752)

参加者:横浜ラポール担当者1名、職員(障害者スポーツ・インストラクター等)21名、手話通訳2名、
日本防災士会 8名(横浜支部6名、葉山支部2名)

講師、ファシリテーター:日本防災士会 横浜支部、葉山支部

(横浜支部:今井、徳江、長沼、乾、山田、小菅 葉山支部:大橋、桜井)



【HUG(避難所運営訓練)の目的・概要】

障害者スポーツ文化センター横浜ラポールは、避難場所には指定されていないが広大な敷地といろいろな設備が有ることから災害時を考えてHUGの講習会を実施することになりました。

今回のHUGについては、勤務する職員の中から経験してみたいとの申し出があり、また以前に実施した職員からも強い要望もあり、高い感心が期待されることから職員の方々にHUGを体験してもらうことを目的とします。

HUGとは、どういうものかについて概要を説明した後に4班に別に分かれ実施しました。今回の講習会には聴覚障害者の方もおられることから各班にファシリテーターを2名配置いたしました。またHUGのルール説明には手話通訳を通して行うなど初めての経験でした。各班の意見のまとめ、発表も手話通訳により行なわれました。

各班の意見発表

- ・初期対応の受付が重要である。情報を得ることにより災害状況が判る。
- ・ルール必要である。ルールないと受付は出来ない。さまざまな事が考えられる。
- ・HUG敷地内のレイアウトでトイレが一番大事である。プールの脇あたりに仮設のトイレを作る。
- ・沢山の課題に悩みました。特に火災の発生が心配だ。実際に火災を沢山見ていると火災が恐ろしい。



今回の講習会には、聴覚障害者の方も参加していることから、手話通訳の方も2名参加しており、講習内容や各班に分かれてのファシリテーターの説明、指示事項などを手話により説明してもらいながら実施しました。人間の五感が外部から受ける情報の割合は、視覚によるものが実に87%とも言われていますので、HUGは身の周りの情報を皆で整理できるとも有効な手段だと思っています。

今後、避難所運営開設現場においても身体障害者、視聴覚障害者の心のケアや外国人に対する災害時の避難対応などについて実践してゆくことが重要な活動であるとも考えて行動して行きたい。

文責: 今井 淳(支部長)